26 春闘「整備安全アンケート」集計結果①

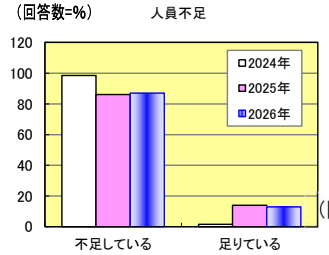
人員体制に見合った業務量に

J-WING
日本航空ユニオン宣伝ニュース
No 285（17－07）
2026年 2月 16日

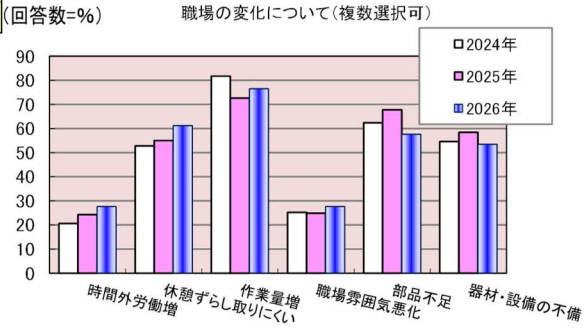
Tel:03-5756-8690 URL http://www.jlu.co.jp e-mail honbu@jlu.co.jp

今年 1 月に実施した「整備連 整備安全アンケート」の集計結果の報告です。回収枚数は JAL 系のみの 170 件で、ライン整備 124、ドック整備 35、ショップ整備 1、スタッフ 10 となっています。それぞれシフトを聞いていますが、今はドックの日勤者が一定数いることがわかりました。

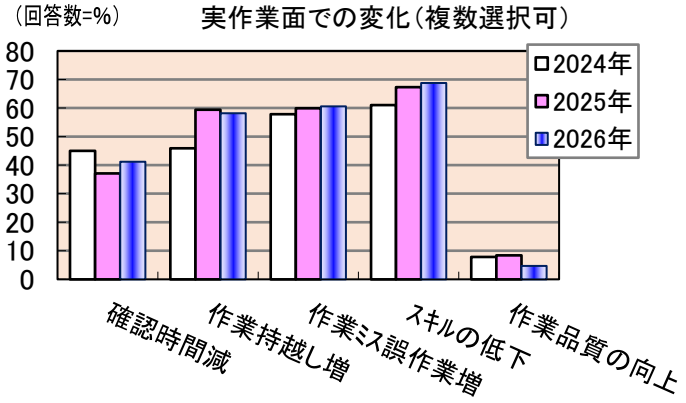
□ この 1 年間の職場の変化について



人員不足による繁忙感は慢性化

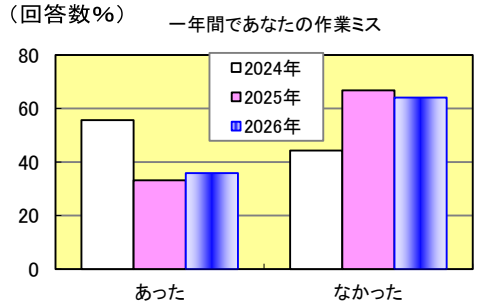


現場に余力無し
全体的な傾向変わらず
職場の環境改善は急務

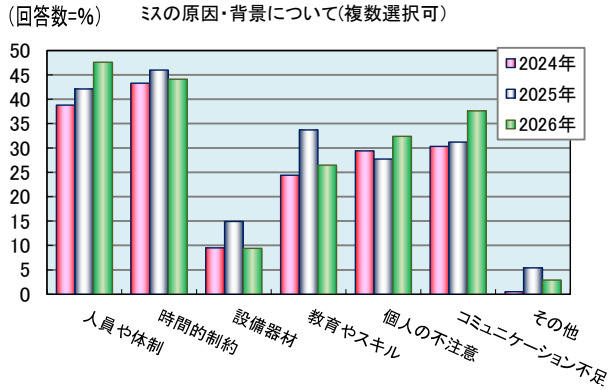


□ この 1 年間の作業ミスについて

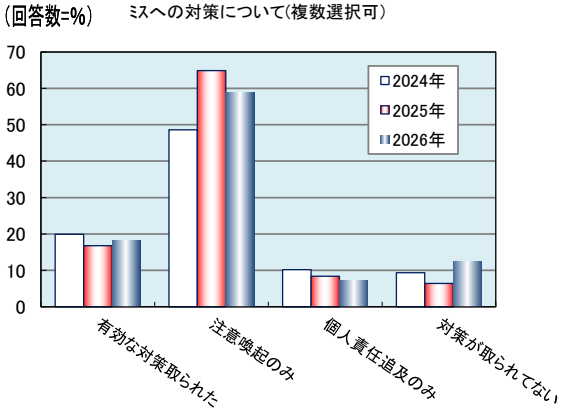
■ 作業ミスの有無についても昨年とほぼ変わりません。ミスの内容では RIS の置き忘れがあげられ、同様の事例をよく耳にしています。新型 RIS の導入によりハード面での防止策が検討されているとのことですが、人的注意に依存した対策には限界があります。



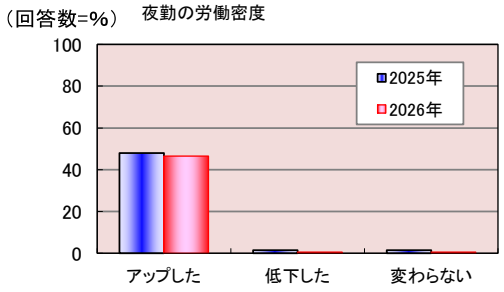
■ ミスの原因については、人員、時間的制約が引き続き上位を占め、3 番目に「コミュニケーション不足」が入りました。確認会話とアサーションの実践が重要です。一方、「設備・器材」に関する回答が減少しました。施設設備の説明会での指摘に一定の対応がなされていることは評価できます。

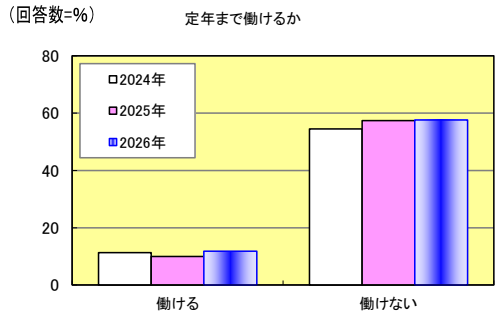


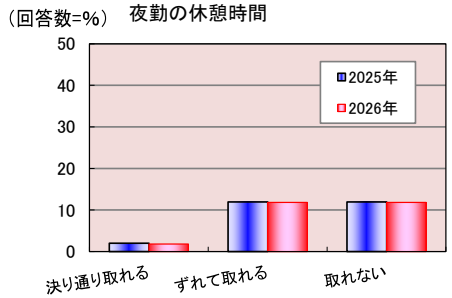
■ ミスへの対策では「注意喚起のみ」が今年も 58.8%と今年も高い割合でした。その他の傾向も変わらず、「対策が取られていない」が 12.4%ありました。対策の増加が新たな負担となる場合もあり、あえて実施していないものもあると考えられます。「精神面に偏った対策が多い」との声もありました。

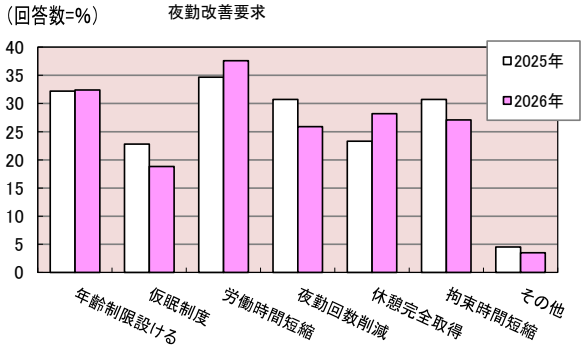


□ 夜勤の実態について









■ 恒常的に夜勤を行っている人に質問をしています。夜勤に関する各項目の結果は前年と大きな変化は見られません。労働密度の上昇や休憩時間の確保困難、「定年まで働けない」との回答が引き続き高い割合を占めています。夜勤の負担は一時的なものではなく、構造的に固定化している状況です。年齢構成を踏まえた体制の見直しが必要です。右に現場の声を紹介します。

夜勤の負荷が高く 体がもたない

グラフの傾向は変わらないものの、記述欄に寄せられた声は極めて深刻です。最も多いのは「体がもたない」「健康が不安」といった体力・健康面の懸念であり、あわせて「休憩が取れない」「労働密度が濃すぎる」といった声が続きました。3 交代勤務では夜勤の拘束時間短縮などの対応もされてきましたが、実際には作業が深夜帯に集中し、十分な休憩が取れない状況が続いています。昼間帯への作業分散も試みられていますが、負担軽減には至っていません。年齢構成の上昇の中で、現場の声に基づいた具体的な負担軽減が求められています。これは個人の問題ではなく、制度設計の問題です。

夜勤の「定年まで働けない」理由の記述内容

◆現行夜勤職場で定年まで働けないと答えた 98 件中、理由の記述が 89 件ありました。具体的な記述内容を一部紹介します。

- 毎夜毎夜、重量物の交換などがある。
- 体力に自信がない。
- 疲労で頭が回らない。
- 生産と人員、スキル力がバランスしていない。
- 休憩が取れない。夜勤は辛い。
- 本当に、身体がもたない。
- 休憩時間が少な過ぎる。
- 年齢により身体がきつい。
- シフト勤務そのものが、健康を害しています。ましてや夜勤はもってのほかです。
- 休憩時間も確保されず作業量に対して人員不足が恒常的で月数回の夜勤は身体に悪影響でしか無い。割り増し賃金も低過ぎる。
- 労働密度が濃過ぎて、ミスを犯しそう。
- 体力的に自信がない。人生仕事だけで良いのか疑問。
- 今は、健康も体力もあるがこれがあと１０年となると、いつどうなるかわからない。確実に健康は脅かされる。
- 資格者、人員が不足していて働く気にならない。
- 労働密度が濃すぎる。後輩が育たずいつまでもメインジョブを 50 代後半の私たちがやっているので身体が持たない。
- キツイのその一言。お金の問題じゃない。

夜勤の「改善要求（その他）」の記述内容

◆夜勤改善要求のその他の記述欄には、10 件の回答がありました。業務量の削減と人員増を求めるものが多く、夜勤手当の増額を求める声もありました。